

東京2020オリパラ自転車競技開催に向けた準備 ～テストイベントを通じた本大会の検証～



文化・観光部スポーツ局

令和元年10月24日

テストイベント概要

	ロードレース	MTB
イベント名	READY STEADY TOKYO -自転車競技(ロード)	READY STEADY TOKYO -自転車競技(マウンテンバイク)
日程	2019年7月21日(日)	2019年10月6日(日)
競技時間	12:00～17:40 (フィニッシュ時間は最終走者)	女子 11:00～12:30 男子 14:00～15:30
会場 (コース)	スタート:武蔵野の森公園(東京) フィニッシュ:富士スピードウェイ(静岡) オリンピック男子ロードレースコース ※富士山麓方面を除く(総距離189km)	伊豆マウンテンバイクコース (日本サイクルスポーツセンター)
選手数	ナショナルチーム(9チーム) UCIコンチネンタル及び 国内チーム(10チーム)	男子46名 (23ナショナルチーム) 女子41名 (25ナショナルチーム) 計 87名
テスト内容	①競技エリア(競技運営、コース上の安全対策等) ②テクノロジー技術(計時・計測機器・競技用無線) ③運営に関わるスタッフ ロードレースはその他に、④道路制限・警察連携、⑤救急体制・消防連携を実施	



富士スピードウェイ



伊豆MTBコース

組織委員会主催のテストイベントは**原則無観客**・競技運営を中心にテスト

テストイベントにおける県の対応

大会開催準備に伴う**最大の課題**は**大会輸送**と**交通対策**

【伊豆会場】過去に**経験のない大規模輸送オペレーション**の実施

【富士会場】モータースポーツでは実績があるものの、オリンピックの輸送は自家用車での直接来場は不可、さらに会場周辺がコースとして使用するため、輸送時間が限定される

組織委員会に大会機運の醸成、観客輸送の検証を目的とした観客動員を提案

【MTB】観戦モニターの企画、募集

【ロードレース】テストイベント開催に合わせ、ゴール会場で1年前イベントを実施

組織委員会主催のテストイベントでは異例の**観客を動員したテストイベント**を**静岡県会場に限り実現**

ロードレーステストイベント開催状況



コース沿道では多くの観戦客が詰めかけ、トップ選手による本番さながらのレースを体感
富士スピードウェイでは、記念イベントを楽しみながら、選手たちのゴールシーンを観戦



ロードレースの検証項目

【検証項目】

- 交通規制による周辺環境への影響
- 交通規制の中での観客輸送
- 沿道観戦客への対応



御殿場駅からのシャトルバス輸送



マイカー駐車場からのシャトルバス輸送



交通規制時間の妥当性の検証、沿道に配置する資機材の設置や、沿道の安全管理をサポートするコースサポーター(地元ボランティア)のスキルアップ

マウンテンバイクテストイベント開催状況



今回のテストイベントでお披露目となった世界に誇る難コースが静岡県伊豆市に誕生
一般観客を含むモニター約2,000人が世界のトップ選手の迫力あるレースを間近で観戦



マウンテンバイクの検証項目

【検証項目】

本番同程度の負荷をかけた最寄駅からの観戦客の輸送

伊豆市、伊東市の協力により市民モニター約800名を募集し、シャトルバス輸送の効率性、移動経路の安全性を検証

市民モニター輸送状況(修善寺駅)



モニター(の待機時間やシャトルバスの運行サイクルを計測、本大会における輸送計画、暑さ対策の見直しに役立てる

本大会開催に向けた取組(テストイベントを経て)

安全で円滑な大会運営
都市活動への影響最小化
猛暑や異常気象への対応

来訪者に対する
最高のおもてなし

開催機運の醸成県
全域に波及

五輪開催を契機としたレガシーの創出

組織委員会、関係機関と連携し、
万全な準備を推進

